

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2018年度 パフォーマンス向上会議情報(2018年6月19日(火)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2018年6月19日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード
1	<p>【6号機125V電源盤(A)(B)および250V電源盤の赤外線温度診断における管理基準値以上の箇所の確認について】 6号機125V電源盤(A)(B)および250V電源盤の赤外線温度診断を実施したところ、盤内機器の4箇所が社内管理基準値(上昇温度50℃)以上であることを確認。 機能、外観に異常はなく、日本工業規格の最高使用温度(120℃)以下を満足していることから継続使用可能と判断。 赤外線温度診断を継続予定。</p>	GⅢ
2	<p>【2号機原子炉格納容器ガス管理設備ダストモニタ(B)の流量低下について】 2号機原子炉格納容器ガス管理設備において、ダスト放射線モニタ(B)の出口流量低警報が発生。 流量調整を実施したが、復旧できず、流量指示計にて監視中。 ダスト放射線モニタの必要流量を満足していることから、ダスト放射線モニタは、引き続き監視可能と判断。 流量低下原因を調査中。</p>	GⅢ
3	<p>【6号機補機冷却海水系ポンプ(A)主軸の軸振計測における許容値超えについて】 6号機補機冷却海水系ポンプ(A)の定例点検において、主軸の軸振計測を実施したところ、許容値を超えていることを確認。 工場にて主軸の補修を予定。</p>	GⅢ